

年末例会報告

2019 年 12 月 22 日(日) 13時から16時30分

30名の会員が参加し、しげい病院5階のかわせみホールで行いました。9名の方のスライドでの発表があり、その後、参加者からの近況報告、懇親会と続けました。



◆スライド映写発表要旨◆

①「2019の昆虫観察:クロアナバチとタテジマカミキリを中心に」

大森 斉

以前から続けている、クロアナバチとタテジマカミキリの生態観察を今年も行い、以下の結果を得た。1) クロアナバチが獲物狩りに出かけて自分の巣に帰ってくる時、どのようにして巣の位置を知るのか、大変興味深い。巣の周囲の目印となるような物を除去し、移動させて、ハチの帰巣に





対する影響を調べる実験から、ハチは巣の周囲の景観を特徴づける事物を目印にすることが分かった。2) タテジマカミキリはカクレミノの枝で越冬中、樹液を摂取していると思われるが、これが生存に必要なかどうかを検討した。調べた条件下では、越冬個体のいる枝を切断し樹液の供給を断っても、生存には影響しないようである。

② 「2019虫アルバムから」

青野 孝昭



2019 年中に倉敷市酒津公園やその界隈で撮った虫たちの写真の中からいくつかを選び、ほぼ時間系列に従って編集してあります。岡山県未記録種、南方系の目新しい北上種、一瞬一瞬の素顔が興味深い種などが含まれています。



③ 「ネアカヨシヤンマの観察」

安田 剛長

「ネアカヨシヤンマ」は全国的に希少種と言われています。そして岡山県では、採集例と観察例が余りありません。しかし、一方、他県では、多産する地域もあります。いったいこの幻のトンボは、何故余りにも目撃来例



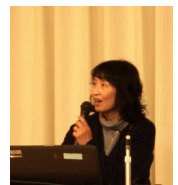
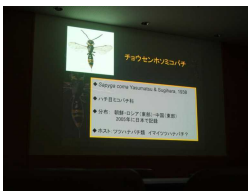
が少ないのか？本当に数が少ないのか？どんな所、どんな環境に生息して、成虫はどういった場所に産卵してくるのか？ヤゴは、いったいどういったライフサイクルを送っているのか？あくまでも個人の観察での知見ではあるが、ここ数年自分が見て感じたことを発表した。



④ 「チョウセンホソミコバチ～岡山の場合～」

小橋 理絵子

チョウセンホソミコバチは 2005 年に兵庫県で記録されたミコバチ科の外来種で、近年になって福井・福岡で、2018 年には岡山市でも 1 個体が記録された。今年になって総社市の藁葺き屋根に群がる多数のチョウセンホソミコバチを偶然発見。その他、ホストと思われるイマイツツハナバチ、岡山県 2 ヶ所目の記録となるナミハセイボウや岡山県中部には記録されていなかったリンネセイボウなどを採集した。その藁葺き屋根での発生環境とあわせて、チョウセンホソミコバチの他県の様子も紹介する。

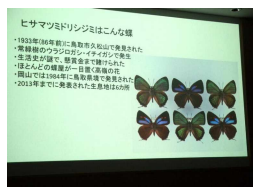


⑤ 「岡山県のヒサマツミドリシジミの生息状況」

三宅 誠治

ヒサマツミドリシジミはこれまで岡山県での記録は少なく、2013 までに発表された生息地の数も 6 カ所（内 2 カ所は飛来場所）しかなく珍しいものと考えられていました。

しかし 2013 年から 2018 年にかけて生息状況の調査を行ったところ、既知の 4 カ所で再確認したほか、中国山地の麓から吉備高原にかけて新たに 80 カ所の発生地が確認され、岡山県には広範囲に生息することが判明しました。



また、食樹（ウラジログシ）の特性である隔年で新芽の量が増減することと、一つの発生地での自生数が少ないことから、多くの場所で隔年発生となること、そしてその背景として本種が活発に移動していると推測されることなどが分かってきました。



⑥ 「偶然目にしたカマキリとナガカメムシの生態」 岡本 忠

2005 年より地元（総社市昭和地区）の甲虫生息調査をしています、甲虫以外の採集品（多くは FIT によるハチ目やハエ目）や生態発見も多く



あります。そのうち、今年見かけたカマキリの墓場ともいえる、水面に浮かぶ無数のカマキリの死骸と水中をうねくる多数のハリガネムシが見られた場所を紹介するとともに、昨年生の竹の中にいた幼虫成虫混在のナガカメムシを発見しましたので、その生態と生活史を調べたので紹介します。



⑦ 「2019年の岡山県美作市と兵庫県佐用町の昆虫」

末宗 安之

私の住んでいる美作市と、隣接する兵庫県佐用町の昆虫を、今年も蝶な



どを中心に撮影しました。また、美咲町の民家に営巣されたニホンミツバチの自然巣を観察できました。今回はキバネツノトンボ、カラスシジミ、キマダラルリツバメなどを紹介しました。



⑧ 「2018～2019 チョウの生態観察記録から」 中村 具見

2018 年～ 2019 年に県内で観察したチョウ（一部のガを含めて）の中から興味深いと思われる種を紹介した。まず、年 1 化性とみられる山地性ホシミスジがかなり汚損した晩夏に産卵すること、県内では希少なハルニレ



を食するアカタテハ、吉備高原南西部でほとんど姿を消したオオヒカゲの再発見、わずかに生き残る吉備高原の特徴的な斑紋を有するゴマシジミ等の観察例のほか、岡山県では今年確認されたベニイカリモンガをはじめ、カバフキシタバ、コ

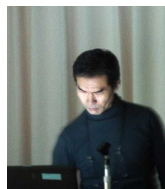


シロシタバ等の平地～低山性のカトカラ数種の生態等について考察した。次いで、継続して観察してきたヒサマツミドリシジミの生態に関して、蛹化場所、成虫の羽化直後から占有行動に至るまで、及び秋季における雌の産卵と採餌行動、そして没姿までの成虫の出現期間等の概要を報告した。

⑨「井上立コレクションの発見」

奥島雄一・三宅誠治

奥島は 2019 年 3 月、鏡野町役場を訪れた際、倉庫でひどく虫害を受けた昆虫標本 3 箱を発見したが、町の職員は由来を知らないとのことだった。処分するつもりで持ち帰ったが、中にウスイロヒョウモンモドキの残骸を発見した。その連絡を受けた三宅の調査で『美作の自然』で知られる井上立氏の収集品であることがわかった。



※資料発表

「岡山県のアカマダラハナムグリ情報をご提供下さい！」

越山洋三

2004 年に鳥の巣で繁殖することが報告されたアカマダラハナムグリは、当初は希少な猛禽類等の巣ばかりから見つかっていたが、2010 年には害鳥として駆除されるカワウの巣からも発見された。カワウは 1970 年代の高度成長期に衰退の底を打った後は V 字回復を成し遂げ、今も増え続けている。演者はアカマダラがカワウの増加に伴って増殖し、盤石の生息基盤を築いているという仮説のもと、裏付け調査を行ってきた。その結果概要をお見せした上で、戦前から現在に至る岡山県内の本種の栄枯盛衰について、大先輩方のご意見や公表されていない情報などを乞いたいと思います。

< 近況報告 >

★毎年、和気町・備前市を中心にトンボの観察や撮影を行っています。今年は、60 種以上のトンボを確認することができ、ムスジイトトンボを始め、初確認のものや、アオハダトンボ、ナニワトンボなど絶滅危惧種を観察することができました。(水井颯麻)

★2016 年から、比婆山連峰（広島県）の甲虫調査を行っていて、その成果を取りまとめました。29 種の広島県初記録と、ハネカクシでは 1 新種が見つかりました。今後はシカの侵入前にどれだけの標本を確保できるかが焦点です。(千田喜博)

★今年は病気の関係もあって採集に行けず、また昆虫食もできませんでした。今は体調が落ち着いているので、来年こそは沢山採集して標本を作りたいです。(大山達仁)

★種松山が自宅から近いので、今年はトラップで昆虫調査をしていきたいと思っています。(大山高宏)

★吉備高原都市区域の昆虫相で記録された昆虫で、同定できなかった標本を「昆虫何で

も相談会」の昆虫に詳しい方に同定をしていただきました。それでも同定できない昆虫はありますが、今後の機会にできたらと思います。(木下義久)

★今年初めて参加させていただきました。なかなか多忙で観察の暇もなく、夜でも観察、採集が可能な蛾類に行き着き、興味をもって調べています。吉備中央町を中心に蛾類の分布を確認していきたいと思います。よろしくお願いします。(山本卓)

★滋賀県で採集した際に樹液に集まる多数のチャイロスズメバチを見つけました。巣があったかどうかは不明ですが、単独行動をするイメージがあったので驚きました。(松本光平)

★最近はお観察が中心ですが、確実に同定するために、ネットは必ず持って行きます。これからは写真でも記録を残そうと思っています。(加門昭徳)

★今年は野外で自家発電機でライトトラップをしてみました。自分でライトポイントを選び、灯火に飛来した昆虫類を見て感動しました。来年は、さらに新しい場所でライトトラップに挑戦したいと思います。(安田剛長)

★今年も体調不良が続いており、採集に出かけることはありませんでした。自宅の庭にきた数匹の昆虫を採集したにすぎませんでした。その中にナガサキアゲハの♂の完品を採集したのは特記事項である。(澤田博仁)

★我が家の標本のデータを作成中です。岡本館長の指導をいただきながら、甲虫目から、コガネムシの途中までできました。昆虫全般を仕上げようと思っています。260箱あるので、時間がかかるとは思いますが、やり遂げようと思っています。(澤田愛子)

★倉敷市立自然史博物館にボランティアとして週1～2回行っていますが、私より少し年上か同年配の虫屋さんの寄贈された標本に接することが多々あります。お亡くなりになって遺族の方から寄贈されたもの、ご本人から直接寄贈されたものといろいろですが、今後私が虫屋としてどのように活動していくべきなのかを考えさせられます。しかし虫屋としての情熱は持ち続けていますので、テーマを絞って取り組んでいきたいと思っています。(岡野貴司)

★岡山市近郊の低山や自宅の庭を中心に昆虫の観察を楽しんでいる。夏は、直翅目を狩るクロアナバチ、冬は成虫越冬するタテジマカミキリの生態や行動の観察を行い、興味深い知見を得た。県北の溪流魚と森林の昆虫の関係にも関心を持っている。(大森 斉)

★寄贈資料の受入れに力を入れています。この1年で6つの大口コレクション計4万7千点を受け入れました。3月22日、博物館の研究発表会で「どうなる虫屋の遺産」という話題で発表します。ぜひ、コレクションをお持ちの方に聴いていただければと思います。(奥島雄一)

★今年度は、夏にタイ王国で昆虫採集をしたり博物館を巡ったりと充実した1年でした。今後は、考古学の道に進みたいため昆虫からは少し離れてしまうかもしれませんが、昆虫が大好きなことは変わらないため今後ともよろしくお願いいたします。(安達由莉)

★カミキリムシを中心に甲虫全般が私の対象です。学習塾をやっているために、泊調査会や忘年会など倉昆の行事に参加できないのがたいへん残念です。倉昆のどなたかと知り合って、虫談義に花を咲かせたいのですが、それもかないません。いつも孤独感を味わい

ながら、もっぱら県北の奥津・上斎原方面での採集活動が続けています。毎年沖縄本島のヤンバルの森にも出かけます。今夏は3日間とも雨にたたられましたが、念願のオキナワキボシカミキリに出会うことができました。ときどき小学校に呼ばれます。今年は2校で、3年生の「こん虫のかんさつ」の授業を行ないました。このときは標本箱もいくつか持って行きます。夏休みの自由研究として、興味のある子どもたちには昆虫採集をさせています。子どもたちとキャンプ場でライトトラップをすることも毎年恒例の行事にしています。(石川富民)

★総社市昭和地区の甲虫相調査も15年が経過し、その間の記録種が1600種を超えました。近年はFITが中心の採集法に偏りがちでしたが、今年からはFITと平行して以前のようにフィールドでの採集に立ち回り、82歳の老体にむち打って野山をできる限り歩き回りたいと思っています。あと何年取り組めるか分かりませんが、2000種が目標です。(岡本 忠)

★今年度も引き続き水生昆虫をマイペースで調査したが、津山付近はあまりゆけなかったもので、来年はその補足調査をしてデータのとりまとめを自分なりにしたいと思っています。(江木寿男)

★岡山県中西部を中心にチョウやガの生態観察が続けています。最近はどこへ行っても虫の姿が少なく、既知産地を訪れても目的の種を見つけることすら容易ではありませんが、生きたチョウの観察を通じて様々な生態が理解でき、採集よりもはるかに奥深いことを実感しています。(中村具見)

★ベニイトトンボのまとめをやっと出すことができました。現在、2020年の綿密な調査計画を立てているところです。やりたいことが多すぎて困っています。(守安敦)

「(参加者名) 澤田博仁、澤田愛子、山本卓、大野聖子、松本光平、水井颯麻、加門昭徳、難波圭吾、大山達仁、大山高宏、千田喜博、山地治、三宅誠治、青野孝昭、武田雅生、中村具見、奥島雄一、岡野貴司、木下義久、大森斉、武田寛生、野嶋宏一、渡辺昭彦、中野一成、末宗安之、江木寿男、神田佐奈恵、岡本忠、小橋理絵子、守安敦 以上30名」

===== 倉敷市立自然史博物館の催しもの案内 =====

※新型コロナウイルスの影響で行事は中止になることがありますので参加をお考えの際は必ず自然史博物館へご確認ください。

◎特別陳列「新着資料展2020<チョウ・ガなど>」

最近寄贈された昆虫標本コレクションを初公開します。

◆会期：2020年4月18日(土)～5月24日(日)

◆会場：自然史博物館3階特別展示室

◆料金：通常料金

◆展示内容：「清水健一コレクション」(中国地方産チョウ・ガ類、約15,000点)、「渡辺和夫コレクション」(岡山県産チョウ類ほか、6,831点)、「喜多嶋鐵也コレクション」(日本産チョウ類ほか、約1,300点)、「富山哲夫コレクション」(世界のチョウ類163点)

◎むしむし探検隊入隊説明会＆オリエンテーション

隊員の募集は行いますが、4月18日の説明会・オリエンテーションは中止し、申込者に別途連絡します。隊員は、オリエンテーション、野外探検（昆虫調査）、標本整理・研究、雑誌への投稿、博物館での展示・発表・ボランティア活動等の一連の体験を通して、昆虫に関する専門知識と技術を学びます。昆虫の専門家を目指す人向きのプログラムです。

◆応募資格：原則として以下①～⑥の条件をすべて満たしていること。①小学校5年～高校3年生。②年間予定のすべてに取り組み、参加できる。③集合場所（自然史博物館かJR 倉敷駅）まで自力で来られるか、保護者の送迎がある。④参加・活動費実費（保険料・交通費・採集用品など）を自己負担できる。⑤十分な体力と精神力がある。⑥自分でスケジュールを管理し、行動に自己責任を持てる。

◆申込み：2020年4月17日（金）17時必着、はがき・手紙（持参可）で次のことをお知らせください。【氏名（漢字・フリガナ）、生年月日（西暦）、学校名、学年、自宅郵便番号・住所、電話番号】（宛先：自然史博物館 奥島）

◆募集人数：若干名

◆入隊説明会・オリエンテーション：※説明会終了後オリエンテーション

日時：2020年4月18日（土）14時～16時（受付13時30分～14時）

場所：自然史博物館地階講義室

持参品：筆記用具、保険料400円（野外活動2回分、隊員になった方のみ集金）

※ むしむし探検隊入隊についての詳細は博物館ホームページでご確認ください。

お問い合わせ・お申し込み先：倉敷市立自然史博物館 〒701-0046 倉敷市中央2-6-1
TEL：(086) 425-6037 （奥島雄一 倉敷市立自然史博物館）

【事務局より】

1. 会誌「すずむし」抜き刷りについて（再）

90号でお知らせしたとおり、ご希望の方に「すずむし」抜き刷り部分をPDFファイルで提供することにしましたが、原稿を投稿される際申し出のなかった方、今からでもご希望があれば、お申し出ください。

○PDFファイルを希望の場合、事務局で該当ページを抽出しメールで送付いたします。

事務局への支払い（会費と一緒に支払いも可）は、10ページまで200円、20ページまで400円、20ページ以上600円です。

2. 「すずむし」公開について

これまで創刊号から16巻1号（通巻99号）までを公開しましたが、4月からは100号から134号（1999年）までを公開しますので、ご利用ください。

3. 倉敷昆虫館の臨時休館延長（とりあえず4月末まで）にともない、事務局への来訪についてのお知らせです。基本的には土曜日・日曜日のみとし、東側の出入り口（病院南側の路地を迂回）からお願いします。駐車場は病院の駐車場をご利用ください。

ただし、来訪の際は前もって連絡をしてください。扉を開錠しておきます。

状況により、5月以降も同様になるかもしれません。

【交換文献】（2019.11.21～2020.3.27）

比和自然科学博物館研究報告(61)	庄原市立比和自然科学博物館
庄原市立比和自然科学博物館標本資料報告(19)	〃

KORASANA (92)	久留米昆虫同好會
久留米虫だより (233), (234)	〃
月刊むし (587)	月刊むし社
ホシザキグリーン財団研究報告 (23)	ホシザキグリーン財団
駿河の昆虫 (267), (268)	静岡昆虫同好会
ちゃっきりむし (201), (202)	〃
蛾類通信 (291), (292)	日本蛾類学会
TINEA 25 (2)	〃
ゆらぎあ (37)	鳥取昆虫同好会
日本昆虫協会ニュースレター	日本昆虫協会
比婆科学 (267)	比婆科学教育振興会
日本昆虫協会ニュースレター (73)	日本昆虫協会
誘蛾燈 (238)	誘蛾会
佐賀の昆虫 (54)	佐賀昆虫同好会
佐賀むし通信 (287) ~ (290)	〃
インセクト70 (2)	とちぎ昆虫愛好会
みちしるべ (56)	岡山昆虫談話会
Nature Study 65 (11) ~ 66 (3)	大阪市立自然史博物館友の会
へりぐろ (41)	瀬戸内むしの会
大阪市立自然史博物館研究報告 (73)	大阪市立自然史博物館
大阪市立自然史博物館 収集資料目録	〃
自然史研究 4 (3)	〃
すかしば (67)	山陰むしの会
いずも虫だより	〃
研究報告特別号 (24) (25)	ホシザキグリーン財団
ホシザキグリーン財団環境修復プロジェクト報告書	〃

【寄贈図書】 (2019.11.21 ~ 2020.3.27)

見近な昆虫 3 6 5	横浜市自然・人文博物館
石川虫の会特別報告 7 号 石川県産昆虫追の記録・分布に関する追加文献目録	石川虫の会
特別展 昆虫	国立博物館・読売新聞社編 (大阪市立自然史博物館より)

【倉敷昆虫館受領文献等】

香川県のカミキリ	高木真人ほか著
しまねレッドデータブック 動物編	島根県
蝶の島 沖縄探蝶紀行	三木卓著
チョウの舞う自然 28号, 29号	日本チョウ類保全協会
愛媛県総合科学博物館研究報告No. 23	愛媛県総合科学博物館
しぜんしくらしき (111), (112)	倉敷市立自然史博物館友の会
昆虫と自然 54 (4) ~ 55 (3)	ニューサイエンス社 (2011年より)
グリーンブックス 8 昆虫学ガイダンス	野村健一 著
進化生研ライブラリー トリバネアゲハの世界	近藤典生・西田 誠 編

<倉敷昆虫同好会 連絡先> 年会費 2, 000円 郵便振替口座 01210-2-6927
 〒710-0051 倉敷市幸町2-30 倉敷昆虫館内 倉敷昆虫同好会事務局
 TEL. 086-422-8207 (直通) FAX. 086-421-1991 E-メール kurakon@shigei.or.jp
 開館：午前 9 時 30 分から午後 5 時まで (13:00 から 14:00 は閉館)
 休館日：月曜日 (祝日・休日の場合は開館し、翌日が休館), 12 月 29 日から 1 月 3 日